

**長野工業高校卓球班 学校対抗堂々の5位入賞！長野県初の快挙**



ラリーズ取材動画



ベスト8までの軌跡

「無謀」と言われても「可能性を信じて実現」

卓球男子団体準々決勝で、長野工は育英(兵庫)に0—3で敗れたが、気迫のこもったプレーで公立校唯一のベスト8入りを成し遂げた。3回戦では敬徳(佐賀)と対戦。ダブルスを落とすなど1—2とリードを許したが、終盤のシングルスで2勝を挙げて逆転した。準々決勝でも強豪相手に攻めの姿勢を失わなかった。



県外生はおらず、部員全員が自宅から通う。練習ノートに目標を毎日書き続けてきた大池俊魁主将(3年)は、「『ベスト8は無謀』との周囲の雰囲気もあったけれど、可能性を信じ、実現できた」と笑顔だった。

